

コヴェントリーII サイクル劇(IX)

橋 本 侃

第十一演目 天国の会議・天使祝詞・懐胎告知

(1)

観想 言ってみれば、四千六百四年もの間、

人間はその罪と悪行とのせいで、

かくも長い年月の間、地獄の苦しみに置かれ、

そこにそのまま終わりなく留まるのがふさわしかった、と申せます。

だが、そのままだと、あなたの偉大な慈しみを無にしてしまうはずでした。

善き主よ、人間を憐れみください、

写本左五十八頁

イザヤの唱えた祈りに御心をお向けください、
慈しみでもって、あなたの至高の威厳を和らげてください。

(2)

神に願います——強固な天の扉を開き、

この地上に降りてこられ、

三十三年の間、人間として生きていただき、

飢えたあなたの民にあなたの食べ物をお与えください。

渇きを癒すために、あなたの脇腹から血を流してください——

罪の贖いなど、直ぐにはなされないのでしょうから。

この困窮の時に、わたしたちを訪れ、

嘆きに嘆くあなたの被造物を憐れみください。

(3)

ああ、悲しいかな、われらは惨めな者のうちでも惨めな者——

神が悲しみに悲しみを加えられてきたからだ。

主に祈ります、あなたの聖霊が降りてこられ、ぜひ見てほしいのです、

病と悲しみのせいで横たわり、涙を流しているわれらを。

あなたの祝福された血でもって、この嘆き苦しみから贖ってください、

地獄に囚われ、泣き声を上げ、嘆きに嘆く被造物を。

ああ、慈しみ深い主よ、明日まで待たせないでください——

その邪悪さで、悪魔はわれらを騙し続けているのです。

(4)

エレミアは言いました、「ああ、誰かこの目に涙の泉を与えてくれぬか。

そうしてくれれば、夜も昼も、泣くことができる——

われらの兄弟たちが、こんなにも長い間、苦しみの内にいるのを見て」と。

あなたの偉大な力が、われらの悪行を矯正してくださいますように。

主よ、アダムの正しい悔恨は海と同じように大きなものでした。

王冠はわたしたちの頭から落ちてしまいました。

人間は罪の重みを荷なわされています。わたしは主に向かって叫び求めます——

慈しみの主よ、慈しみの主よ、慈しみの主よ、天より降りて来てください。

(5)

徳天使

主よ、恐れながら申し上げます、

あなたが造られた人間を憐れみください。

族長たちと預言者たちは止むことなく祈りを捧げています。

わたしたちの務めは、かれらの祈りをあなたに向かって呈示することです。

天使と主天使とわれら徳天使の三者は
人間と接触する天軍九隊の下級三隊におります。

人間のために、あなたの高貴な權威に向かって願います——
慈しみを、慈しみを、慈しみを、われらは叫び求めます。

(6)

主よ、あなたは栄光に溢れる、かの天使を造られましたが、
奴は罪を犯したせいで地獄の悪魔となりました。

奴は人間をそのかし、あのように神に齒向かわせました。

後悔したはずなのに、人間はその頑迷さの内に末だに留まっています。

善き主よ、人間の大きな悪を止めさせ、

あなたの慈しみに向かわせてください。

あなたの慈しみでもって、天使と共にかれらを住まわせてください、

大天使ルシフェルがかつて占めていた階位を元に戻すために。

(7)

父

寄ル辺ナキ身ノ惨メサト、同種ノ貧シサユエニ、今ヤ、ワタシハ燃エ上ガル。
救いを得られない者たちの惨めさと、

不運な者たちの嘆き悲しみのために、

今こそ、全能であるわたしは立ち上がろう——
和解の時が来た。

わたしの預言者たちは祈りに祈りを重ねている。

わたしの悔悛した被造物は皆、慰めを求め叫んでいる。

天国にいるわたしの天使たちはこぞって、止むことなく、

慈しみが人間に向けられるように、と叫び声を上げている。

(8)

真実

主よ、わたしはあなたの娘真実です。

わたしが知恵を台無しにしていることは直ぐにお分かりでしょう。

あなたに逆らう被造物を救うことなど嘆かわしいことです。

人間の罪はあなたをひどく苦しめてきました。

アダムが罪を犯した時に、その場で言われましたね、

「死んで地獄へ行くべし」と。

それにもかかわらず、今になって、元に戻されて、祝福するとは！

対立するもの同士は共に留まらないものです。

(9)

主よ、あなたの真実を終わりなく続けてください。

わたし眞実は、どのような形にせよ、あなたから離れられません。

人間はあんなにもあなたに逆らった惨めな輩ではありませんが、

実際はそんなに悲しまずにいるのかも知れません——

あなたを軽んじ、あなたの敵を喜ばせたのですから。

あなたは人間を造られた方、人間こそがあなたの被造物。

あなたは眞実を今まで以上に愛されている、と言われていきます。

それゆえ、地獄の苦しみの内に、もっともっと留まらせて置くことです。

(10)

憐憫

おお、慈しみの父、そして、慰めの神よ、

苦しみのたびに、あなたはわたしたちの相談に乗ってくれました。

あなたの娘慈しみをあなたの元に戻させてください。

そして、道を誤った人間を憐れんでください——

道から外れてしまったので非常に苦しんでいます。

天と地とはこぞって慈しみを求めて叫び声を上げています。

例外などあるべきでないとわたしには思えます——

こうもはっきりと祈りが捧げられているのですから。

(11)

眞実は言いました、今までずっと眞実であつた、と。

眞実がそうであつたことは認めましょう。

それに、主は終わりなく言われます、慈しみを人間のために取っておいた、と。

ならば、慈しみに溢れる主よ、わたしたち二人を共に捨てずにいてください。

あなたは言われる、「ワタシノ眞実ト憐憫トハ、イツモノヨウニアル」と。

ならば、あなたの聖霊を悲しみの内に眠らせることのないようにしてください。

悪行を止めるように命じられるのを忌み嫌うあの地獄の猟犬に、

あなたの愛の力で、人間をもうこれ以上支配させないようにしてください。

(12)

正義

慈しみよ、あなたの気持ちを動かしているものにわたしは驚いています。

良く分かっているでしょう、わたしがあなたの妹の正義であることを。

神は正しく、正しさを愛されます。

人間は終わりのない神に逆らつて罪を犯しました。

それゆえ、神の終わりのない罰はけつして止むことはないでしょう。

と同時に、人間は土くれから造つてもらつた創造主を見捨て、

己の師として悪魔を選んだのです。

人間を救うべきか——否、否、否！

(13)

ああ、人間は神と同等に賢い者になるつもりでいた。

これは忌ままししい思い上がりであった。

あなたたちはわたしを通じ、よくご存知でしょう——

神の正しさには限度がない、と言われていることを。

それゆえ、これをわれらの結論としましょう——

重罪を犯した者など悲しみの中にもいつまでも留めておくことです。

しかるべき償い一つできない者を、

誰が、このような場合に、罪から贖うだろうか——否、です。

(14)

憐憫

妹の正義よ、あなたは復讐心に燃えていますね。

終わりのない罪でも神は終わりなく元に戻せるのです。

神は、御業のうちの何にもまして、慈しみ深い方なのです——

たとえ罪を犯すことで人間が神を捨てることがあっても、信仰において神をけって捨てないのならば、

ことさら慈しみ深い方なのです。

それに、たとえ人間がひどく傲慢であっても、

人間の心の脆さを考えに入れなくてはなりません。

左六(105)

よろしいですか、これが神の教えであることを覚えておきなさい——
神の慈しみには終わりが無い、ということ。

(15)

平和

そこまで言わずにいたほうがお姉さま方にふさわしいのに……。

徳を低くしてしまうのは立派なことではありません。

神の平和はすべての知恵を凌駕します。

あなた方、**真実**と**正義**のお二人は、大いに理に合ったことを言われますが、

慈しみが一番良いことを言った、というのがわたしの意見です。

なぜなら、もしも人間の魂が地獄に留まらなくてはならないのなら、

神と人間との間は永遠に隔たっていなくてはなりません。

そうであるのならば、わたし平和の留まれる場所はないでしょう。

(16)

それゆえ、このように折り合いを付けるのが一番いいと思われれます。

そうなれば、あなた方は天と地とを喜ばせることになりましょう。

あなた方お二人は主を信じて、

その高貴な知恵において裁可していただくことです。

これをもっとも適宜であるとわたしには思えます。

そして、わたしたち四人がそれでも一緒にいられるかどうか見てみましょう。
 嘆かわしいこととなります、人間の魂が滅びてしまったり、
 わたしたちの誰でもが他の誰かから離れたりすることなど。

(17)

真実

真実言って、そのことにわたしは賛成です。

わたしたちは主にむかって、そのようにあってほしい、と祈ります。

正義

わたし正義は、それで満足です――

神にあっては、とても公平だからです。

(18)

憐憫

それに、わたし慈しみも、この会議から逃げ出すつもりはありません、

知恵が黙るように言うまでは。

平和

今ここに神がおられ、ここに一致があります。

天と地とは平和であることを喜んでいます。

(19)

子

わたしは平和のことばかり考えて、悪についてはなにも考えていません。

次の点であなた方の不一致を見たように判断します。

もしもアダムが死んでいなかったのなら、正義も滅びていたでしょうし、

真実もまた失われていたでしょう。

真実と正義は悪行を罰するはずです。

もしも、もう一つの死が来ないのなら、慈しみも滅びるはずです。

その時には、平和は永遠に追放されているはずで。

それゆえ、この二つの死はあなた方の四人が大切にすべきものなのです。

(20)

しかし、知らなくてはならないのは、

死ぬことになる者に罪の一つも無いかも知れないことと、

地獄がいかなる掟においてもその者を留めておけず、

囚われの身になることなく、過ぎ越すことができる、ということなのです。

このような者のいる場所を良く探してみなさい。

そして、その者の死は人間の死にとっての償いとなるでしょう。

天と地のすべてを、さあ、あなた方は探しなさい、

この結論が気に入るのであれば。

(21)

真実

わたし真実は探して来ましたが、地上のあらゆるところを。

しかし、事実、誰一人として見つかりません、

産まれて一日経つ者で罪のない者は、

あるいは、あのような死に定められている者は。

憐憫

わたし慈しみは天の領域を巡って来ました。

しかし、あのような慈しみを持つ者は一人もいません、

人間のために死に到る傷を負おうとする者は。

ああ、わたしには分かりません、このままだと、どういうことになるのが。

(22)

正義

しかるべき資格を備えた者を見つけられません——

わたしたちの誰もが役に立たない神の召使ということになります。

その愛は熱く燃える必要がある、

人間のために地獄へゆくつもりの方の愛は。

平和

神ができることは一つしかありません。

これが平和の提言です——

この会議を開いた方に安心感だけでも与えましょう。

なぜなら、これらすべての結論はその方にこそ存するからです。

(23)

子

人間を造ったことでわたしの心は傷む。

言ってみれば、痛みを人間のために負わなくてはならないのだ。

三位一体の会議を開いて決めなくてはならない、

わたしたちのいずれが人間を元の状態に戻せるかどうかを。

父

子よ、汝の知恵において、人間は造られた。

悪魔に誘惑されたのも知恵においてだった。

それゆえ、直ぐに、この目的を汝の知恵に命じなさい。

そして、人間の救済がどのように行われるか見届けなさい。

(24)

子

父よ、これを実行する者は、神でもあり人間でもなくてはなりません。

その衣服をどのように身につけたらいいのか試させてください。

そして、人間がわたしの知恵において始めたのですから、

この行動を起こす用意がわたしには整っております。

聖霊

わたし聖霊はあなた方お二人に先立ちます。

この務めをこの身に引き受けましょう。

神の愛であるわたしは、あなた方を愛する方へお二人を導きましょう。

これがわたしたち三位一体が同意したことです。

憐憫

いまこそ和解の日がわれわれ四人によってついに造られました。

かつてそうであったように、わたしたちは今や平和のうちに一緒に暮らせます。

〔ココデ、憐憫ト真実トハ互イニ見交ワシ、正義ト平和トハ、ソレゾレ接吻ヲ交ワス。ソシテ、皆モ同様ニ接吻ヲ交ワス。〕

(25)

父

善き天使ガブリエルよ、われらから汝を送り出そう、

ガリラヤの地へ、

ナゼレ市と知られる所へ、

一人の乙女の元へ。乙女は結婚していて、

夫の名前はヨセフと呼ばれ、

ダビデ王家の生まれだ。

汚れない乙女の名前はマリアで、

人間の墮落のすべてを矯正するであろう。

(26)

子

その乙女に告げなさい、「あなたには悲しみがなく、神の恵みに溢れ、

神の御子があなたから産まれるであろう」と。

汝は急いでそこへ赴きなさい。

さもなければ、わたしたちが汝よりも先にその場所にいることになろう。

わたしは大いに急がなくてはならない――

そのもっとも謙虚で純潔の乙女の胎内でわたしが人間になるためには、

伝えなさい、その乙女が元どおりに修復することを、

あなたたち天使の大きな墮落を。

(27)

聖霊

そして、その乙女が、どうしてそのようになるのか、と問うたなら、

わたし聖霊がことのすべてを動かしている、と告げなさい。

われら三位一体の一致した力によって乙女は救われるであろう。

その明かしとして、子どもが産まれなかった従姉のエリザベスは

高齢にもかかわらず子どもを孕んでいるのだ。

わたしたちにとって不可能なものはない、と乙女に告げなさい。

乙女の体は恵みに満たされているので、

乙女は汝の派遣を信じることができる、と直ぐに考えるだろう。

(28)

ガブリエル

主よ、あなたの高貴な使命を帯びて行きましょう。

一つの望みをもって、このことはなされるでしょう。

今や、主よ、ご覧ください、乙女の元にゆきます。

左六二(205)

飛び立ちます、手間は取りません。

〔メデタシ、聖寵充ち満テルまりあ、主ハ御身ト共ニマシマス。〕

おめでとう、恵まれた方、神があなたと共におられる。

あなたはすべての女性の内で祝福されています。

ここに、エバという名前はアベに変わった。

つまり、あなたには悲しみなど今や何もない、ということです。

(29)

あなたの内に悲しみが宿る場所はないが、

それでも、婦人よ、あなたはさらに喜びを必要としています。

それゆえ、さらに加え、「恵まれた方」と告げよう。

なぜなら、これほどまでの慈しみに恵まれて産まれた人はいません。

それでも、慈しまれる人は神の加護が大いに必要なのです。

それゆえ、「神があなたと共におられる」と告げるのです。

神があなたを終わりなく守られるでしょう。

それゆえ、「すべての女性の内で祝福されている」のです。

(30)

マリア ああ、神よ、慈しみを！ これは驚くべきことを耳にしました。

天使の言葉にわたしは困って、どうしていいのかわかりません。

この挨拶がいかなるものであるのかを考えさせてください。

天使たちが毎日、わたしの元に現れますが、

わたしの仲間の人間に似た形をしています。

そしてまた、このようにわたしは高く褒められますが、

もっともふさわしくない者なので、どう応えていいのかわかりません。

大きな恥ずかしさと大きな恐ろしさがわたしの内にあります。

(31)

ガブリエル

マリアよ、このことに恐れはいけません。

なぜなら、あなたは慈しみを神において見出しているからです。

あなたの子宮は孕むでしょう、

三位一体の御子である子を、確かに。

その子の名前はイエスと呼ばれるでしょう。

大いなる者となり、至高の方の御子と産まれながらに呼ばれるでしょう。

そして、主はその子に父ダビデの座を与え、

ヤコブの家を治めさせ、その支配は終わりがありません。

(32)

マリヤ 天使よ、あなたにお尋ねします、

このようなことがいかなる形でもありえましょうか。

なぜなら、未だにわたしは男の人を知りません。

これまでも、これからも、わたしは処女性を守ります。

おっしゃった言葉を疑いませんが、

そのようなことがどのようなようになされるのかをお尋ねします。

ガブリエル 聖霊が天からあなたの身に下ってきて、

至高の神の力があなたを庇護するでしょう。

(33)

それゆえ、かの聖霊があなたから生まれ、

神の賢い御子と呼ばれるでしょう。

それから、あなたの従姉のエリザベスに会いなさい。

高齢にもかかわらず息子を孕んでいます。

今月で妊娠六ヶ月です。

子が産めないと言われていた女性の子どもです。

神のなさることに不可能はありません。

エリザベスたちはあなたから話を聞くのが待ち遠しいと思っておりますよ。

(34)

マリアよ、さあさ、急ぎなさい。

そして、気に留めなさい——

祝福された聖霊が

あなたの答えと同意を待っていることを。

神の賢い御業をとおして、

確かに、第二の位格である御子が

友愛によって人間に造られ、

あなたの胎内のしかるべき位置に存在することを。

(35)

さらに今の時、気に留めなさい——

天国にあって神の御前にいる

神の力が祝福された霊のすべてがいかにあるかを、

善く、真実に生きる人々すべてが

この地上にいかにあるかを、

真実を知るあなた自身の親族と、

この慈しみの時に、地獄にいて、解放を待つ

選ばれた靈魂たちがいかにあるかを。

(36)

アダムとアブラハム、それにダビデ共々、

名声を持った他の多くの人たちは

あなたの答えを聞きたいと欲している、

加えて、受肉にたいするあなたの同意を。

その受肉の内にあなたは立っている、

すべての人間の救いの保護者として。

さあ、親愛なる婦人よ、いまこそわたしに返事をください、

これら被造物すべての慰めのために。

(37)

マリヤ　すべての謙虚さをもって、この受肉に同意したいと思えます。

このように顔を伏せ、恭順のすべてを込めて。

ご覧ください、ここに、主の端女がおります。

あなたの言葉どおりに、そのようなことがこの身に起こりますように。

ガブリエル　ありがとうございます、汚れないわたしの婦人よ、

ありがとうございます、美しい答えをしていただいて、

ありがとう、あなたの大きな恭順を、

ありがとう、あなたは光の灯明です。「ここで、聖霊は三筋の光と共に父である神が御子へ下る。そして、
そのようにして三者すべてが一体となってマリアの胸元に入る。すると、マリアが言う。」

マリア ああ、わたしの体の内にあるのを今や感じます、

完全な神と完全な人間が、

子どもの体の特性を備え、すべての姿かたちを持って。

このように、神はすべてのことを一度に始められました。

(38)

最初に体の一部、そしてその後、もう一つの部分を形造るのではなく、

あなたは欠けるところのない子どもを取り、

あなたの端女から、今やあなたの母親を造られた。

血肉に痛みを感じない。

このように子どもを孕む女性はいなかった、

この地上で、かつて命を持つ者にはなかった。

おお、玉座におられるわたしの至高の父よ、

あなたの子どもが今やわたしの子となって神の恵みを持つのにふさわしい。

(39)

この喜びが、この喜びがどのようなものであるか言葉では表せない、今の今、体の内を感じている喜びを。

天使ガブリエル、このようなことにたいして、あなたに感謝します。

わたしの父の慈しみに、もっとも謙虚にこの身を委ねます、

神の母になったばかりですから。

さあ、今が今、従姉のエリザベスにとても会いたい、

あなたが事細かに告げられたように、どのように懐妊したのかを知りたい。

いまや、高貴な三位一体の神が祝せられんことを。

(40)

ガブリエル

さようなら、雉鳩よ、愛しい神の娘よ、

さようなら、神の母よ、あなたをわたしは敬います、

さようなら、神の姉妹よ、そして、神の伴侶よ、

さようなら、神の住まい、神の東屋よ。

(41)

マリア

さようなら、神の特使のガブリエル、

さようなら、神の特任を帯びた御使いよ、

高い旅をあなたに感謝します、

あなたの偉大な親切に感謝します、

(42)

そして、すなわち、あなたの快い告知についても。

なぜなら、わたしは靈感によって理解しています、

あなたが神の特別の恵みによって知っていることを、

わたしの子の受肉についてのほとんどのことを。

あなたに願います、これを慣例にしてくれることを。

一つの通例の仕事として

天と地とを繋ぐ中間の道をしばしば通って、わたしを訪ねてくださるようには。

あなたが目の前にいることはわたしの慰めです。

(43)

ガブリエル

婦人よ、あなたの意向のままに、そのようにいたしましょう。

生まれながらに、あなたは親族の中でもっとも優しく、一番気高い。

いかなる程度においても地上において支配される方だ、

神の第一原因によって。

(44)

わたしはこの身を三位一体の玉座のあなたに委ねます。

おお、恭順の乙女で、今や、イエスの母、

天の女王、地上の貴婦人、地獄の皇后であれ！

あなたに向かつて祈る罪深い者たちの助けになられる方よ。

あなたの体は赤子を孕むので、われらの恵みは新しくなるだろう。

慈しみの母よ、あなたに向かつて、もっとも恭順にこの身を委ねます。

そして、わたしが始めたように、「アベ」でわたしは新たに終わる。

わたしが天に登るにつれ、天と地とは結び付けられた。

天使タチガ次ノヨウニ続イテ歌ウ。「メデタシ、聖龍充チ満テルまりあ、主ハ御身ト共ニマシマス、幸セ

ノ乙女ヨ。」

〔ここに、「天国の会議・天使祝詞・懐胎告知」が終わり、十二番演目「ヨセフの帰宅」へ続く。〕